

持続可能な社会に向けた取組みについて

～電子マニフェスト導入のメリット～

日本マクドナルド株式会社 コミュニケーション&CR 本部
サステナビリティ&ESG 部 マネージャー 秋濱 隆之

企業プロフィール

マクドナルドは1955年4月15日 米国イリノイ州ディスプレーンズにオープンし、現在、世界100以上の国と地域に約40,000店舗あります。

お客様にとって「お気に入りの食事の場とスタイルであり続けること」が、日本マクドナルドのミッションと考え、約19万人のアルバイトの方とともに、年間約14億人のお客様に「QSC+V」^{*1}のご提供をさせていただいているハンバーガー・レストラン・チェーンです。

※1 Q=Quality/品質、S=Service/サービス、C=Cleanliness/清潔さ、V=Value/価値

企業概要

設立：2002年7月1日（持株会社制移行時に新設）
1971年5月1日
所在地：東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
従業員数：2,346名（2021年12月31日現在）
店舗数：約2,900店舗（2022年10月現在）
事業内容：ハンバーガー・レストラン・チェーンの経営並びにそれに付帯する一切の事業

1 電子マニフェストの導入について

2006年度（平成18年）頃の直営店舗数は約2,800店舗以上あり、各店舗が地元自治体の許可を有した廃棄物業者と契約を行っていました。当時は契約書も各店舗の店長が契約を行っており、産業廃棄物を処理した際に交付する紙マニフェストも店舗で保管していました。

「コンプライアンスの遵守」、「行政報告の簡素化」、「店舗で働く従業員はお客様に集中できる環境づくり」が行うことができるように本社

で廃棄物業者の一元管理を行うことになり、廃棄物毎の管理会社と一元管理契約を行うことになりました。

そして翌年、廃棄物管理会社から「電子マニフェストを利用した場合はマニフェスト等登録等状況報告が不要」であることのアドバイスをいただき、本格的に電子マニフェストの運用に舵を切ることになりました。

2 電子マニフェストの運用とメリット

廃棄物の担当部署と廃棄物管理会社がOne Teamとなり、店舗から排出された産業廃棄物の管理を行っています。電子マニフェストの本格運用前には担当者数名と廃棄物管理会社の方とJWセンターを訪問し、講習会の受講や基本操作の練習を行いました。

現在、電子マニフェストの運用は各廃棄物の廃棄物管理会社と業務提携し予約登録^{*2}や委託先処理業者と調整等を行っていただき適正な処理を行っています。（図1 参照）

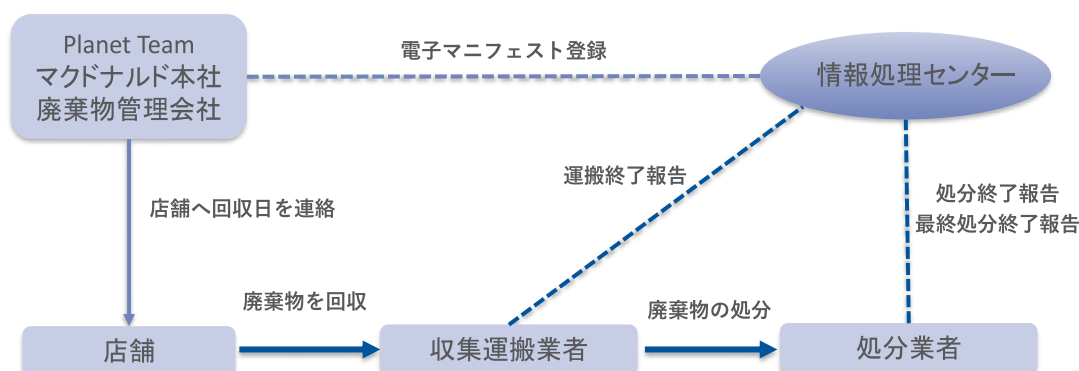


図1 日本マクドナルド株式会社 電子マニフェストの運用

紙マニフェストは、各店舗で1年間分を保管し、年に1回店舗から回収、契約倉庫に保管していました。

そのため行政からマニフェストの提出を求められた際、大量の書類の中からマニフェストを探す手間や時間が必要になりますが、電子マニフェストの場合だと、いつでもどこからでもマニフェストデータにアクセス可能なため、行政や商業施設などへ出店している店舗の施設のオーナーからマニフェストの問合せがあった場合などは、すぐに検索し、出力を行うため1年以上前のマニフェストでも時間をかけずに提出することができるようになりました。

※2【予約登録】産業廃棄物の排出前の子定の段階で、その時点で決まっている情報のみを入力し、マニフェスト情報を仮登録すること。

3 今後の電子マニフェストの利用について

マクドナルドの店舗は直営とフランチャイズの形態で運営をしていますが、フランチャイズ法人に対しても電子マニフェストのメリット・デメリットの情報を共有し、電子マニフェストの推奨を行っています。現在は90%以上のフランチャイズ法人が電子マニフェストを導入し

運用しています。

現在、直営店舗の電子マニフェストの運用率は、ほぼ100%です。地方で稀に処理業者が電子マニフェストを導入していない、または商業施設などに入店している店舗では、施設側の指定業者と契約しなければならないため、その業者が電子マニフェストを運用していない業者もあります。そのような業者に対してもできる限り、電子マニフェストへ加入していただくように働きかけを行っていきたいと考えています。

4 環境への取組みについて

毎日多くのお客様をお迎えし、お食事をご提供している私たちには大きな責任があると思っています。私たちの環境に対する基本理念は“地球のことを考えて行動する”です。世界的な課題である気候変動や環境汚染について、社会の一員として積極的に取り組むことで環境保全に寄与するとともに、事業活動における環境負荷の削減についても常に検討し、行動を約束します。具体的なアクションとしてはプラスチック製おもちゃの2R（リデュース・リサイクル）の強化。日本では2018年より各国のマクドナルドに先駆けて、遊ばなくなったハッピー

セット®のおもちゃを全国の店舗で回収しリサイクルプロジェクトを行ったり、知育・徳育を鑑みて図鑑や絵本を導入したりしており、プラスチックの削減にもつながるような取組みを行っています。

リデュースの取組みとして米マクドナルド社が発表した「ハッピーセット®のおもちゃにおけるプラスチックの削減」に参加し、化石資源由来の原料を新規に使用したプラスチックを2025年末までに段階的に削減。サステナブルな素材を使用したおもちゃに移行します。2025年末までに、お客様に提供するすべてのパッケージを、再生可能な素材、リサイクル素材またはFSC認証された素材に変更することを目標にしています。プラスチック製のストローとカトラリーについては2022年2月より横浜エリアで、7月以降順次、京都エリア・神奈川エリアで紙製ストロー・木製カトラリーを導入しています。この取組みはプラスチック資源循環促進法に合致した活動となり、2022年10月7日から全国への拡大をいたしました。

持続可能な社会の実現に向けてマクドナルドでは森林の自然環境を守るために森林環境に配慮して作られた資材の導入を推進しており、お客様用紙製容器包装類はFSC認証済み資材を使用しています。また、店舗で使用している「トレイマット」もFSC認証紙を使用しています。人類共有の財産である水産資源を守るために、持続可能で環境に配慮した漁業で獲られた水産資源であることを示す「MSC認証」を取得した天然のアメリカ・ロシア産スケソウダラをフィレオフィッシュに使用しています。コーヒー栽培は気候変動による影響を受けやすく、気候変動によって栽培に適した栽培地域が移動

する懸念があります。これに配慮し、お客様に提供するコーヒー豆は、森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供する「レインフォレスト・アライアンス認証」を取得した農園で栽培されたものを100%使用しています。

パーム油は、世界で最も多く生産・消費されている植物油ですが、その生産は熱帯雨林や様々な生物の大規模な消失を招く恐れがあります。店舗で使用するフライオイルは、熱帯雨林や生物多様性、人々の生活に悪影響を及ぼさないことに配慮して生産されたことを示す「RSPO認証」を取得したパーム油を使用しています。

最後に弊社の廃棄物管理についてご紹介させていただきます。2020年は「食品循環資源利用飼料の安全確保のガイドライン」、2022年は「プラスチック資源循環促進法」とガイドラインの変更や新たな法律が施行されました。新しい情報を提供していただくためにマクドナルドでは廃棄物の専門知識を有した複数の廃棄物管理会社と協力しながら、廃棄物の適正処理に努めています。そして1年に1回は、「廃棄物管理会社勉強会」を開催し、マクドナルドの基本理念などをともに学習しています。



マクドナルド 店舗外観